

■ 導入 わたしの未来の拓き方 (時間：約2分30秒)

ねらい

固定的役割分担意識にとらわれることなく、自分自身がこれから、ライフプランを決定し、実行する立場であることに気付かせるとともに、プログラムでの学習内容をイメージさせる。

● 映像シナリオ

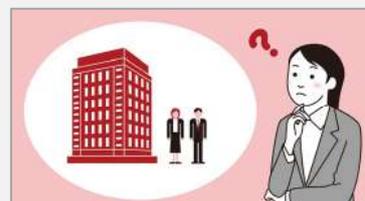
あなたは、10年後、20年後の自分のことを考えたことがありますか？

今、仕事、パートナー、結婚、子育てに対する環境や考え方が、大きく変わり始めています。



学校を卒業したら、もう勉強できないの？

いいえ。何歳からでも学びは深めることができます。



やりがいのある仕事と家庭の両立は難しいの？

いいえ。仕事や生き方に合わせて、働き方は選ぶことができます。



家事や子育ては、女性がするもの？

いいえ。周りの多くの人の手を借りながら、女性だけでなく、父親、母親が共に責任を持ち、子育てをすることが大切です。

男性も育児休業を取ることができます。

しかし、半数以上の男性が仕事と育児の両立を希望しているにもかかわらず、現在、日本での男性の育児休業取得率は、わずか7%です。それはなぜでしょうか。

それはなぜでしょうか。



「これから」の生き方を考える時、あなたは、これまで「当たり前」と思っていた役割や順序、方法にとらわれていませんか？

自分らしい生き方をするためには、人生のそれぞれのステージでどんな選択をするのか、自分自身で考え、決定することが必要になっています。



今までの「当たり前」や「男はこうあるべき、女はこうあるべき」…という考えから離れて、思い描いた生き方を実現させて自分らしく生きるために、何から考えればいいのでしょうか？

授業をきっかけに、みんなで一緒に考えてみましょう。

この授業は、あなたらしい生き方に向かうための第一歩です。

あなた自身の未来を拓くために…。



■ ライフプランニング事例 ※インタビュー（時間：各2分～2分30秒程度）

実際に、自身の価値観に基づき、ライフプランニングを行い、ライフプランを実現させた人たちのインタビュー動画です。生徒の興味や授業時間に応じて視聴する映像を選択してください。

※ストーリーシートに登場した人物の内容と、インタビュー出演者の内容に関連はありません。

ねらい

ライフプランニングが自分の考えや価値観に基づくものであること、ライフプランニングにより、充実した日々を過ごすことができるのは、自分のライフプランに対する他者の理解や協力があつたからであることに気付かせる。

映像出演者の選定基準について

- ・自身の価値観に基づいてライフプランニングをしている。
- ・ライフプランの内容が多様である。（出演者同士でライフプランの内容に似た要素がない）

● 映像内容

家族の思いを実現するために専業主夫の道へ

※インタビューの内容は、令和元年10月時点のものです。

北 佳弘（きた よしひろ）さん

営業職から専業主夫、一般社団法人主宰へ



看護師である妻の働きに出たいという気持ちを尊重したい、応援したいという思いから専業主夫に。おむつ台や多目的トイレ自体が女性側にあたりするなど、まだまだ育児というものが女性の社会の中にあるものだとされ、男性がその育児の場に関わるというのが難しいと感じている。

ライフプランを実現させ、他の人とは違う生き方をしてきたので、今後はこれを伝えることに価値があると感じている。この生き方を仕事としても活かしていきたいと思い、一般社団法人を起ち上げた。これから先、どういう風に生きようかと考えている人たち、今悩んでいるお父さんたちのヒントになれば良いかと感じながら活動しています。

自分がどういう風に生きたいかを考えることが一番大切。自分がこうだと決めたことがあれば、それに対してしっかりと進んでほしい。

自分の興味があることを追いかけて新天地へ

※インタビューの内容は、令和元年10月時点のものです。

板倉 真弓（いたくら まゆみ）さん

営業事務職から広島で一般事務職へ



大好きな野球の球団にわたしが近づこうと思い、広島に移住。

移住に向け、情報を得るために東京にあるふるさと支援回帰センターの窓口へ行き、様々な情報を収集。広島という土地には、縁もゆかりもないので就職には苦労した。

自分がやりたい道なので毎日楽しく、自分からどんどん新しいことにチャレンジしている。普段は話さないであろう人たちとも積極的に話すなど、より楽しい日々を送ろうと努力もしている。

移住して丸三年が経つが今がライフプラン達成ではないと私は思っている。「来年はこのようなことをしよう」ということを、心の中で決めながら日々過ごしている。

失敗をおそれずに、そして選択肢は無数にあるので、我流のライフプランを立てて、失敗をしてもその経験を絶対に自分の財産にしてほしい。

出産・子育てをきっかけに店舗を起業

浦部 清香 (うらべ きよか) さん

※インタビューの内容は、令和元年10月時点のものです。

ソフトウェア販売から店舗経営者へ



長女が6か月の時に昔から好きだったアロマやハーブの勉強を始め、ベビーマッサージの資格も取得。

開業を目指していた時は、夫やベビーマッサージの先生に相談に乗ってもらったり、一緒に勉強した仲間たちと励まし合いながら準備をした。

育児は、夫や母などの家族に協力してもらったり、保育園や幼稚園を活用するなどして、自分の仕事のための時間も確保してきた。

これからは、ハーブやアロマがもっと生活の中で活かされるよう、その良さを伝えていきたい。

「こうなりたいな」という人がいたら、その人に会いに行き話聞いてほしい。糸口がきくと見つかるし、プロセスを教えてください、応援もしてくれる。

キャリアとライフスタイルに合わせて故郷の広島へ

丸本 健二郎 (まるもと けんじろう) さん

※インタビューの内容は、令和元年10月時点のものです。

東京でシステムエンジニアから、広島でシステムエンジニアへ



自分は、創造するよりは、いくつか組み合わせて最適なものを作ることが得意だと思っており、どちらかという社会貢献というよりも目の前にいる人たちの環境を良くすることに能力を使おうと考えている。自分の時間が充実する場所では無いと感じたため、広島に移住。

迷った時には、人にまず相談をする。周りの人を大事にすることで自分が困った時に頼ることができる。

自分がまだ価値ある人間であるためには、「どういうスキルを磨いておかないといけないのか」ということを考え、足りないものに近づくための努力や勉強は欠かせないようにしている。

周りの人と自分の考えを发表し合ってほしい。その中で自分が考えてないことを考えた人がいた時は、その考えを、これはすごいなと思い、自分に取り入れてほしい。

自分の能力を最大限に活かせるステージを求めて、自分のやりたいことにチャレンジする

山平 麻祐子 (やまひら まゆこ) さん

※インタビューの内容は、令和2年9月時点のものです。

商社で事務職を経験後、様々なキャリアを経てフリーランスへ



商社に事務職として就職後、副業としてブライダルの司会業にチャレンジし、仕事をする中で他者から認められ、必要とされることに喜びを感じたことをきっかけに、その後、テーマパークで接客やマネジメント業務に従事。現在は、フリーランスとして複数の仕事を抱えながら、常に新しいステージにチャレンジしている。

自分がこれまで取り組んできたことを振り返ると、仕事は人から求められて成り立っていると思う。これから先も、人の役に立てる仕事をやっていきたいと思っており、求められる限りは、仕事をしていきたい。

仕事してる自分が自分であり、働くことは生きることだと思っている。

仕事は、自分が選択しても、相手から選択されないで成立しない。他者から選択される人間であってほしいし、そうなるためには、どうあるべきか、今何をすべきかを、一生懸命考えて、行動に移してほしい。